

# SELFBUILD

●[ミニログ共通]セルフビルスマニュアル

# MANUAL

## contents

- 第1章 はじめに
- 第2章 必要な道具・工具・資材
- 第3章 基礎について
- 第4章 Let's チャレンジ!

# はじめに

## 1 部材の保管上の注意…カビの発生や日焼けによる変色に注意を!

部材到着後、長期間かけて作業する場合は、養生を徹底して下さい。部材は屋根のある場所に置くか、シートを2重、3重にかぶせ、雨や直射日光、また地面にじかに接触しないようにして下さい。雨などで部材が濡れると、カビが発生したり反りやねじれなどが出たりする原因となります。又、日のあたる場所に放置すると、日焼けにより変色しますので、充分注意して下さい。

## 2 部材に欠品や破損・加工ミスがあった場合

納品後、すみやかにご連絡ください。弊社在庫より補充又は交換などの処置を取ります。キットに含まれる予備材で対処頂く場合もございます。但し、部材到着より1ヶ月以上経過してからの部材・部品の紛失や悪条件での保管により部材の変化、破損、カビなどが発生した場合の部材交換又は補充につきましては、代金をお支払い頂く場合がございますので、あらかじめご了承下さい。尚、若干のキズ、ソリなどにつきましては、無垢材使用につき、ご容赦下さい。

## 3 建具のガラスが割っていた場合

最寄りのガラス店で入れ直して頂き、かかった費用を残金より相殺又は返金させて頂きます。尚、ガラスの交換費用の目安は3,500円前後です。弊社に窓の在庫がある場合には交換もしくはガラスのみ送付(この場合取付はお客様にお願いします)にて対応させて頂くことも可能です。

## 4 部材にカビが発生した場合の対処

専用の薬品で処理できますので、DIYショップでご購入頂くか、弊社にて注文下さい。ただし、発生から長期間経過している場合は、落とせなくなる恐れもございますので、発見後すみやかに処理を行って下さい。

※ノーベルA・B液各1.8ℓ(2種1セット)…¥6,500(送料・税別)

## 5 キット以外に必要な資材の調整について

最寄りのDIYショップや建材店などでご購入下さい。塗料・カビ取り剤を除いては、弊社での取扱い、支給手配は行っておりません。

## 6 居住性を高めるために…床・天井に断熱工事を行いましょう

特に屋根については、仕上材のアスファルトシングルが太陽熱を吸収しやすいので、夏の暑さ対策に断熱工事を行なうことをお薦めします。(P9参照)

## 7 強風対策

ログ組●妻壁のノッチ組をしない部分については、ログ間にネダボンドを使用して接着、また、1段ごとに木ネジを打つなどの措置を行って下さい。

野地板・鼻隠板などの板材●キット内の釘ではなく、木ネジを使用するようにして下さい。木ネジはお客様にてご手配願います。

**軒・屋根全体**●棟木・母屋・野地板をカットするなどして軒の出を小さくし、風圧を受けにくくなるよう工夫して下さい。また、ベランダ付タイプ(A・Bタイプ)で、下から巻き上げる風による正面屋根のあたりの心配がある場合は、ベランダログとけたを立柱で補強するなどして下さい。

## 8 多雪地域での建築について

屋根の積雪が50cm以上になる地域では、ご判断の上急勾配に変更する・屋根の仕上材を変更する・棟木・母屋の補強(立柱を使用する)などの対策を講じてください。

## 9 白アリ対策

専門会社へお問合せ下さい。

その他不明な点がありましたらお問合せ下さい。

## 第2章

# 必要な道具・工具・資材

## 1 必ず用意する物

ここでは、セルフビルトを行うにあたり、なくてはならない道具や工具を紹介します。キットには含まれておりますので、お客様各自ご用意下さい。

- 脚立(最上部の高さ1.5m以上もの)
- 足場板／ログ壁の組立、屋根の作業等に使用します。
- 水平水準器／基礎・壁の水平チェックに使用します。
- 木鎌(掛け矢)(大きめのもの)
- ／ログ壁を組立てる際に、当て木を添えて叩いて収めます。
- 金づち・釘抜き／板材の釘打ちに使用します。
- 鋸／板材の加工に使用します。
- カッターナイフ(大きめのもの)
- ／屋根材(アスファルトシングル、ルーフィング)のカットに使用します。
- 釘締め／床板を釘打ちする際に使用します。
- ドライバー／ドア把手の取付に使用します。
- 差し金／採寸や加工の際に使用します。
- 金切バサミ／屋根用水切板金の加工に使用します。
- 釘袋(小さいバケツなど、代用品でも可)
- ／沢山の釘を使用するため、釘入れになる物をご用意下さい。
- 鉛筆／印付け等に使用します。
- ノミ／通しボリトのナットをおさめる際の座掘り、建具部のログの実取り、不具合が生じた場合の加工に使用します。
- アスファルトルーフィング／屋根仕上材の下地に使用します。
- 防腐剤(クレオソート)／一段目ログに塗ります。
- 塗料／外壁と室内の床に使用します。

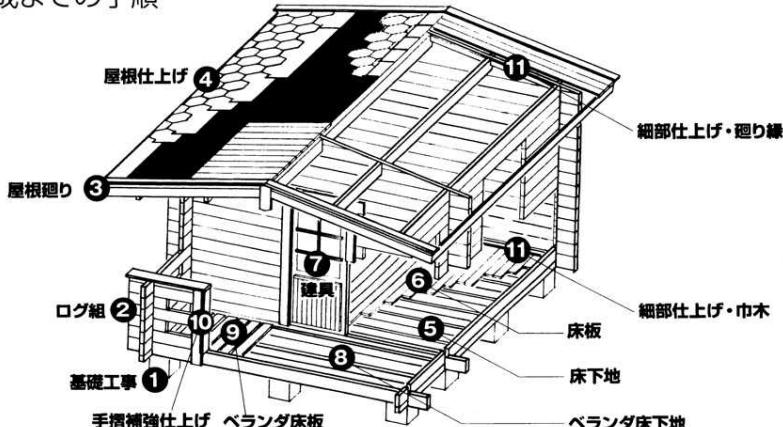
- バケツ・はけ／塗装や防腐剤を塗るのに使用します。
- 六角レンチ／ドアノブを固定する時に使用します。
- モンキーレンチ／通しボルトのナット締めに使用します。
- メジャー／計測、確認などに使用します。
- 軍手・皮手袋／作業中ケガのないように、必ずはめて作業して下さい。
- シート／部材の養生や、雨対策に使用します。
- ほうき・ブラシ・雑巾・ゴミ袋／清掃用。

## 2 あると良い物

作業能率を上げ、建物の強度を高めるなど、性能を上げるために揃えたい道具類を紹介します。

- 電動ドライバー・ドリル／釘止めの代わりに木ネジ止めにする、基礎とログを固定するなど。
- 木ネジ／釘の代わりに使用します。
- 断熱材／気密・断熱性を高めます。
- コンバネ・角材／断熱材受け、野地板に。
- コーティング材とコーティング用ガン／防水、断熱性を高めます。
- 丸ノコ／材料の加工に。野地板、床板、コンバネなどの裁断を行います。
- タッカー／アスファルトルーフィングや断熱材の取付に使用します。
- ネダボンド／ログ壁妻部（三角部）の補強や、強風対策に。
- 延長コード／電動工具の使用の際に。

## 完成までの手順



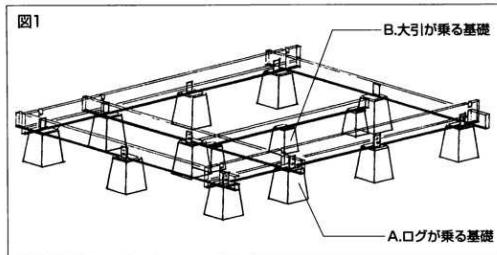
**アドバイス** この順番通りに限りませんが、雨の心配のないように、ログ組後にすぐ屋根を仕上げ、それから床板や建具にとりかかると良いでしょう。

# 基礎について

## 1 整地と基礎

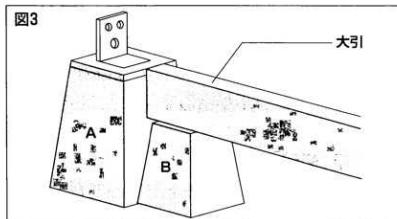
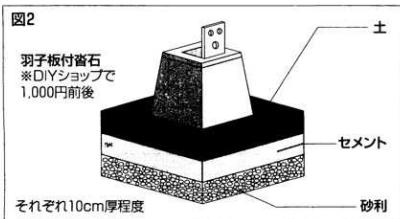
まず最初に、地固めを行います。石や樹木などを取り除き、建地は、できるだけ平らにして下さい。整地ができましたら、次はいよいよ基礎作りです。例を参考にして、お客様の土地状況に合わせた基礎作りを行って下さい。

- 羽子板ボルト付沓石を使用する場合（基礎図面参照）（図1）



### [基礎A]

配置場所の印付けを行います。沓石の下部を30cm程度掘り、一番下に砂利を10cm厚ほど入れて固め、次にセメントを同じく10cm厚に流します。その上に沓石を置きます。最後に10cm厚程度土を入れ、固め、仕上げます（図2）。



### [基礎B]

基礎B（図3）は羽子板付でなくとも構いません。天端高さが基礎Aより9.5cm（大引の高さ分）低くなるように設置して下さい。ただし土台用の角材（キット外）をご使用になる場合には、Bの基礎高をAの基礎高と揃えて仕上げて下さい。



### アドバイス

- 基礎が水平でないと、壁を正確に組み上げられません。水平水準器（P3参照）を使って、慎重に作業を進行して下さい。最後に、全てが水平になっていることを確認しなっていない場合には、水平になるまで調整して下さい。同様に、基礎の各コーナーの対角を計り、直角も確認して下さい。
- 基礎図面は羽子板ボルト付沓石を使用し、羽子板がログの外面で止めるタイプの仕様となっておりますので、羽子板をログの内面で止める場合や土台用の角材（キット外）を使用する場合などはお問合せ下さい。

- 建築地が傾斜地等で、コンクリートで本格的な独立基礎や布基礎を作る場合  
お近くの専門業者に依頼するか、ご相談の上行って下さい。

### 1 部材チェックと仕分け

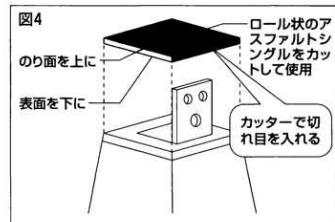
長い梱包の方にはログ材と建具、短い梱包には板材その他全てが入っています。2~3日で完成させる予定の方でしたら、梱包から全て取り出し部材ごとに仕分けしておくと、作業しやすいでしょう。しかし、長期間かける予定の方は、部材を全部広げてしまうと養生しにくくなりますので、作業する分だけ抜き出しながらやる方が良いでしょう。



- 破損や欠品、ガラスの割れ、加工ミス、加工忘れ（例えば通しボルト用の穴が開いているかどうかなど）を必ず確認して下さい。
- 板材の寸法については、メーカーの都合により、若干厚みが増したり、幅が広くなったりする場合がありますが、施工に支障ありませんので、あらかじめご了承下さい。

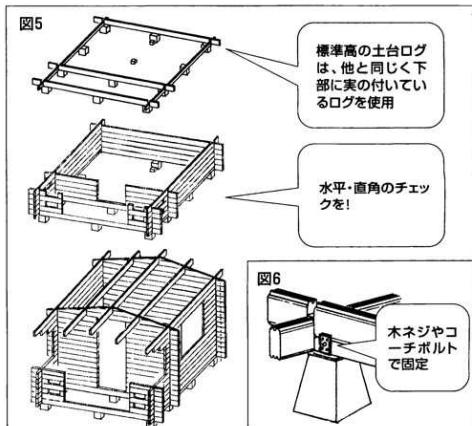
### 2 土台・ログ組

まず基礎天端に、防水シートとしてロール状のアスファルトシングル（キット内）を敷きます。ロール状のシングルは2本入っていますが、その内10.5m分は屋根に使用しますので、余った分を利用下さい。シングルは基礎天端形状に合わせてカットして使用して下さい（図4）。羽子板やボルトが当たる部分はカッターで切れ目を入れ、上からかぶせます。このとき、シングル材の表面を下に、接着面を上にし、ログとシングルが密着するようにします。



#### ●ログ組（図5）

土台のログにクレオソートを塗ってからログ組を開始します。まず、高さが半分の土台ログを置き、次に標準高の土台ログをはめ込みます。はまるまで、掛け矢でしっかりと打ち込んで下さい。この時点で基礎同様壁の各コーナーの対角線を計りログ交差部が直角である事を確認の上、基礎の羽子板ボルトと土台ログを木ネジやコーチボルトで固定して下さい。その後、壁図に従ってトップログまで、さらに母屋・棟木まで組み上げて下さい。ログを打ち込むときは、あて木を添えて掛け矢で叩き、隙間が出来ないようにしっかりと組んで下さい（図6）。





## アドバイス

●時々、ログ壁の水平・直角がとれているか、確認しながら行って下さい。特に、開口部の両側は、ノッチ部と同様に強く叩いているとノッチ部より沈み込んでしまう場合がありますので、注意して下さい。

●開口部の上のログをはめ込む際、くんできた壁が両側に開いてログがおさまりにくい場合には、ノッチ部の小口にあて木をして内側に叩き込みながら、同じタイミングで上から落とし込むようにして下さい(図7)。

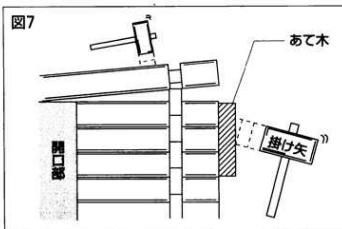
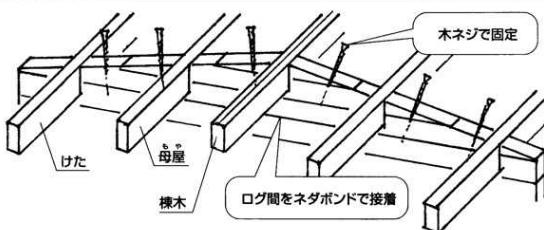


図8



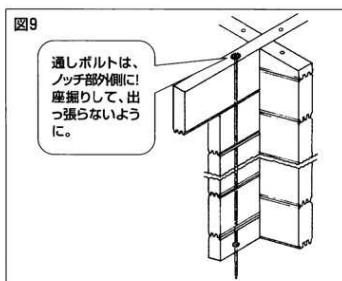
## アドバイス

●三角の妻部分は、両側のノッチが組まないため不安定になりますので、ネダボンドでログ間を接着したり、木ネジで止めるようにして下さい(図8)。

●母屋、けた用ログ上部は屋根勾配に合わせて斜めにカットされていますので、使用場所に注意して下さい。

最後に、4隅のノッチ部に、上から通しボルトを入れます(図9)。入りにくい時には、金づちで叩きながら下まで通して下さい。

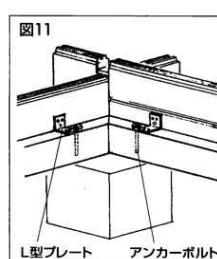
上下にナットを入れ、上部は野地板を貼った時に当たらないように、ノミで座掘り、おさめて下さい。



●土台用の角材(キット外・角材□105mmや□120mmなど)を使用する場合

まず、土台となる角材を基礎の上に配します(図10)。角材とログの外側が揃うように設置します。以下上記同様です。

固定の仕方としては、基礎と土台用角材をアンカーボルトで固定し、土台用角材とログをL型プレートで内側で止めるのが良いでしょう(図11)。



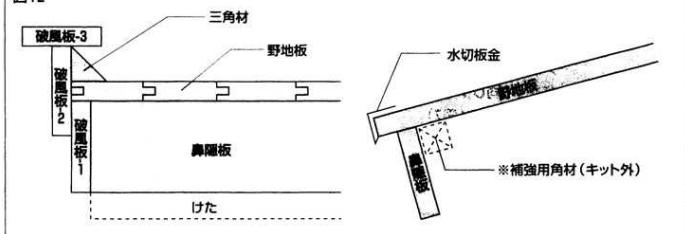
使用する釘



### 3 屋根まわり

#### ●断熱工事をしない場合(図12)

図12

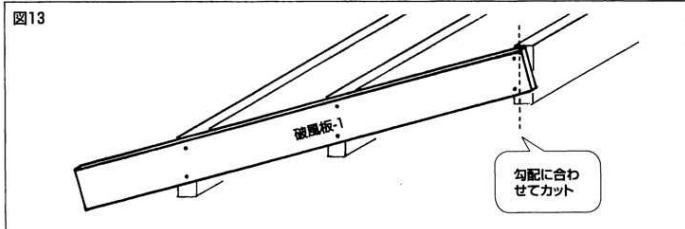


**アドバイス** ●雪・風対策には、木ネジ(キット外)を使用して下さい。また、鼻隠板の裏側に角材を取り付けて下さい。

#### 【破風板-1】(図13)

まず、破風板のうち、1番短いタイプを、棟木、母屋、けたの小口に打ち付けます。

図13



#### 【野地板】

次に、野地板を貼ります。この時まず、ログ壁と棟木、母屋、けたとの各交差部の高さが全て揃っているかどうか確認してから作業を始めて下さい。棟木、母屋、けたの方が多少出ているくらいなら問題ありません。

野地板は、棟木、母屋、けたに釘止めしてゆきます。一部の野地板に、節が抜け落ち、穴が開いてしまう場合がありますので、室内に見えないよう、軒に出るようにするなど使い方にご注意下さい。最後の野地板は、必要な幅にカットして貼ります。



**アドバイス** ●慌てて貼ると、野地板間に隙間が出たり、徐々に斜めに貼られたり、釘が棟木、母屋、けたに打たれずに室内から見えてしまったりしますので、注意深く貼って下さい。

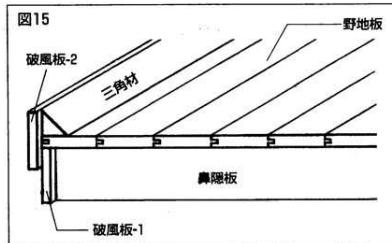
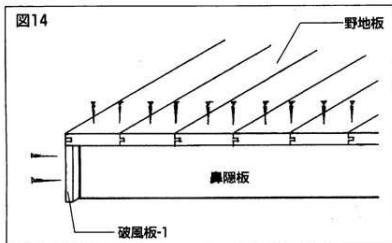
#### 【鼻隠板】【破風板-2】【三角材】

鼻隠板は、野地板と破風板-1から釘打ちして固定して下さい。強風対策などで、し



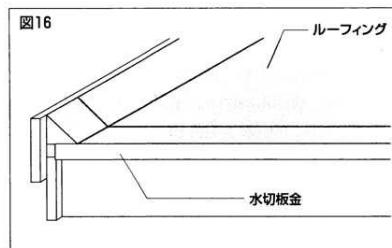
っかり固定させたい方は、木ネジを使用したり鼻隠板の裏側に角材(□45mmキット外)をあてるなどして下さい(図12、14)。

三角材は、野地板の端に合わせ、釘止めします。破風板-2は、三角材と上端を合わせて釘止めします(図15)。



#### [アスファルトルーフィング] (キット外) (図16)

屋根全体にルーフィングを貼って下さい。下から上に重ねてゆきます。ルーフィングはタッカーなどでしっかりと止めて下さい。

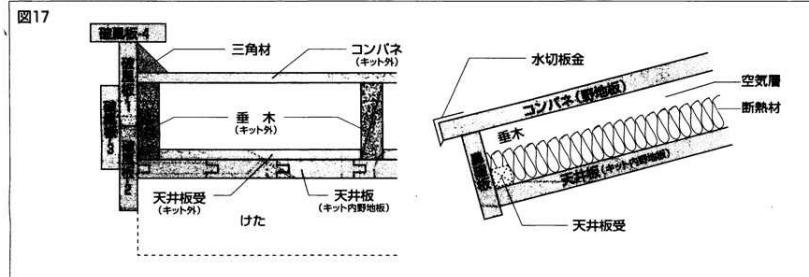


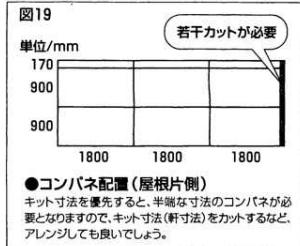
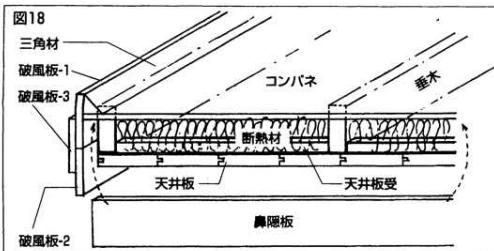
#### [水切板金] (図16)

左右軒先端にシングル釘で打ち付けます。両端は金切バサミで加工して下さい。釘を打つ間隔は30cm程度です。

破風板-3は、仕上のシングル材を貼った後、最後に止めます(図12)。尚、強風対策には板の幅を狭くカットし、板金(キット外)やシングルをかぶせると良いでしょう。

#### ●断熱工事をする場合(図17、18)





#### [野地板:天井板]

けた・母屋・棟木の出に合わせ、貼ってゆきます。注意事項は前述と同様です。

#### [垂木] W30mm×H90mm×L2000mmの角材を24本使用

長さは現場合合わせで加工して下さい。野地板の流れと同じ方向に、475mm間隔で配置し、固定します。

#### [野地板受材] □30mm程度の角材を10.5m分使用

野地板の軒側先端に打ち付けていきます。

#### [断熱材]

隙間の出ないように、断熱材をつめ、天井板にタッカーで押さえます。

#### [コンパネ] W900mm×L1800mm×H12mmを14枚使用

垂木に釘打ちします(図19)。

#### [三角材・破風板-1、2、3・鼻隠板]

三角材→破風板-1、2、3→鼻隠板→破風板-3の順に釘止めして下さい。破風板4はシングル材を貼った後に止めますが、この分はキットとして見ていませんのでリザーブ材を使用するなどして下さい。以下、屋根仕上げまでは前述通りです。

#### 使用する釘



●2.5×20mm (実物大) ●アスファルトシングル

#### 4 屋根仕上げ



##### アドバイス

- ロールタイプ→デザインカットタイプ→角タイプの順に使用します。
- シングル釘を使用。
- シングルの裏面には接着剤が付いていますので、セロファンを剥がしてご使用下さい。夏、高温になる場所に置いておくと、裏面のセロファンが剥がれにくくなりますので、必ず日陰において下さい。セロファンは、貼る直前に剥がすようにしましょう。

#### [ロールタイプシングル] (図20)

まず、左右の軒端に1列づつ釘打ちします。

図20

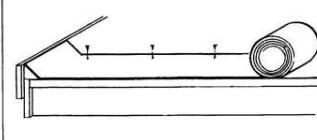
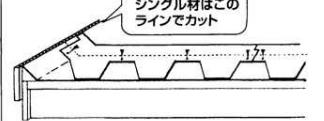


図21



**[デザインカットタイプ] (図21)**

軒端から横に一列づつ貼ってゆきます。釘は、2列目のシングルがかぶって、隠れる部分に打ちます。端で半端が出たら三角材のはじに合わせてカッターでカットします。そのあまりも無駄なく使用して下さい。次に2列目を貼ってゆきます。同様に棟まで仕上げます。棟部は屋根両側からの半端分も2重に重ねて釘打ちします。

**[角タイプ] (図22)**

棟部に1列に貼っていきます。約3cmずつかぶりが出来ますが、念のため、仮置きして確認してから、止め始めて下さい。

最後は、三角材の部分にしっかりと釘止めを行つて下さい。シングルが貼り終わったら、破風板-3(又は4)を取り付けます。(図12)

図22

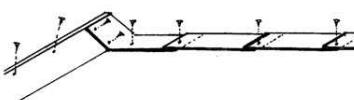
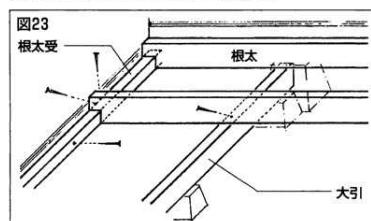
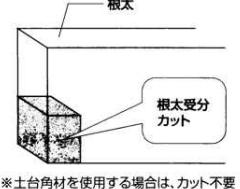
**5 床****●断熱工事をしない場合 (図23)**

図24

**[根太受]**

まず、左右の土台ログに、下端を合わせて、釘止めします。

**[大引]**

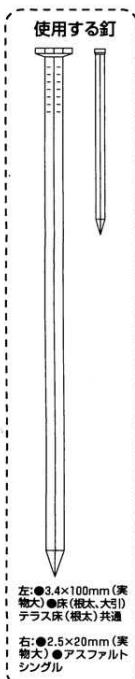
納まる長さにカットし、基礎の上にのせます。あとから根太と釘止めしますので、ここではのせるだけで良いでしょう。

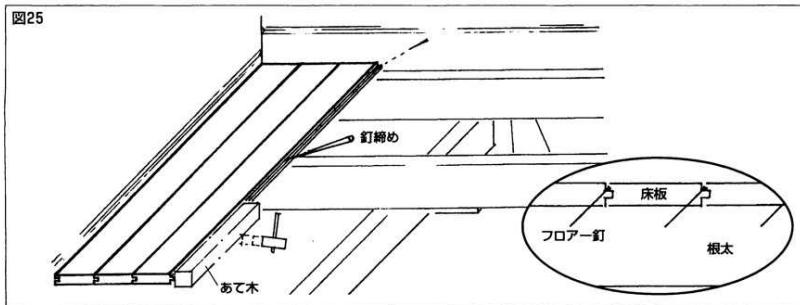
**[根太]**

根太受にのる部分をカットして下さい(図24)。その後、約35cm間隔で配置し、根太受と大引に釘打ちして下さい。

**[床板]**

フロアー釘を使って、実(さね)部分から根太に釘打ちします(図25)。  
釘締めを利用して、しっかりと止めて下さい。2枚目からは、あて木をして、実を噛み合わせ隙間が出ないように貼って下さい。最後の床板は必要サイズにカットして使用して下さい。





### ●断熱工事をする場合(図26)

#### [根太]

根太受部のカット後、根太の左右(ただしログに止める根太には片側だけ)にコンパネ受用の角材(□30mm程度)を釘止めし根太を取り付けます。

[ベニヤ板] L900mm×W1800mm×H5.5mm／6枚<A・Bタイプ>、8枚<C・Dタイプ>使用

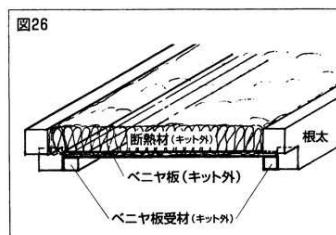
根太間に隙間の出ないように敷き、受用の角材に釘止めします。

#### [断熱材]

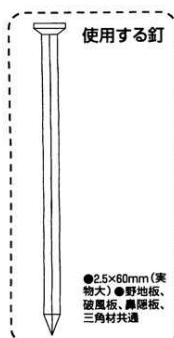
隙間の無いように敷き、タッカーで止めて下さい。

#### [床板]

前述同様に行います。



**アドバイス** コンパネ不要の断熱材、スタイロフォームなどを使用する方法もありますので、方法につきましてはご相談下さい。

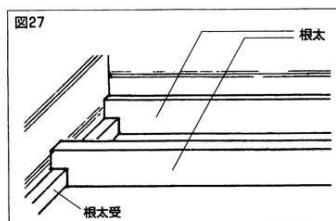


## 6 ベランダ床・手摺

ベランダ用の床板・根太受・根太には、縁がかった防腐処理材を使用します。

#### [根太受・根太] (図27)

3本の根太を横に流します。幅の薄い根太は、ドアのある壁と手前の手摺部の土台ログに下端を合わせて、釘止めします。太い根太は中央に配置します。





## 【使用する釘】

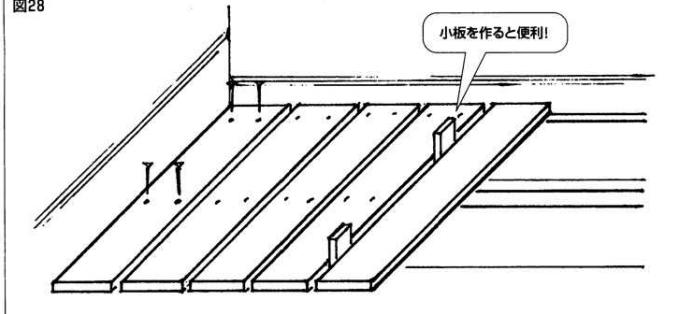


●Ø2.5×60mm (実  
長60mm)  
●野地板、  
壁板、  
床板、  
三角材共通

## 【床板】(図28)

約6~7mmの隙間を開けて貼りますが、念のため、仮置きをして、確認してから始めて下さい。尚、間隔をとる際には、隙間厚の小板をつくり、使用すると効率的です。

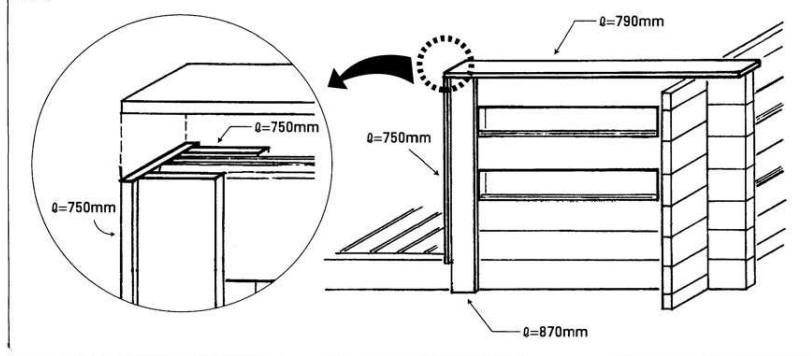
図28



## 【手摺補強】(図29)

必要な長さにカットして、釘止めします。

図29



## ●テラス手摺の補強板の取付け方

キットに入っている95(又は120)mm×15mmサイズの板を、必要な長さにカットし、釘止めします。

・Ø =750mm      · Ø =870mm      · Ø =790mm

## 7 建具(窓・ドア共通)



### アドバイス

- 建具取付の作業は、2人で行ないましょう。建具が倒れてガラスが破損したり怪我をしたりしないよう、注意して下さい。
- 作業の前に、窓の丁番のピンが抜けていないかどうか、確認して下さい。ピンが外れていると、作業中に扉が外れてしまう恐れがありますのでご注意下さい。
- 窓は丁番のピンの方向には上下があります。取付時にご注意下さい。

まず、建具が乗る部分(ログ上部の実)をノコギリとノミを使って取り、安定が良くなるように平らにして下さい(図30)。

その後、建具をのせ、左右の隙間を均等にします。1人に片側を押さえもらいながら、下の枠をログに3ヶ所釘止めして下さい(図31)。

図30

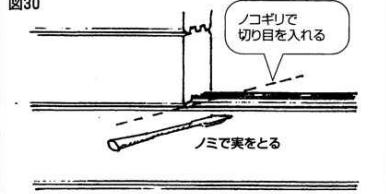
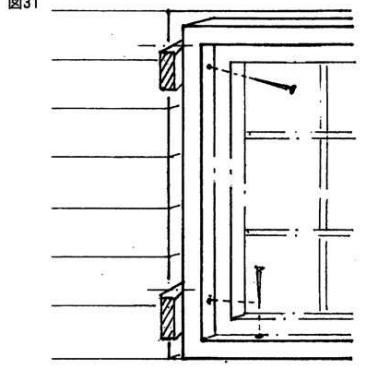


図32



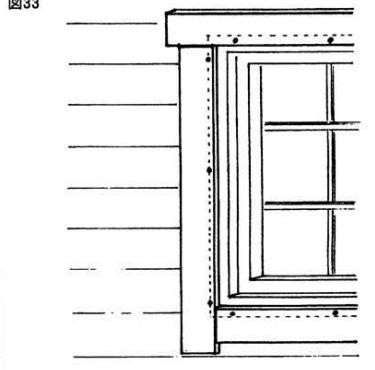
図31



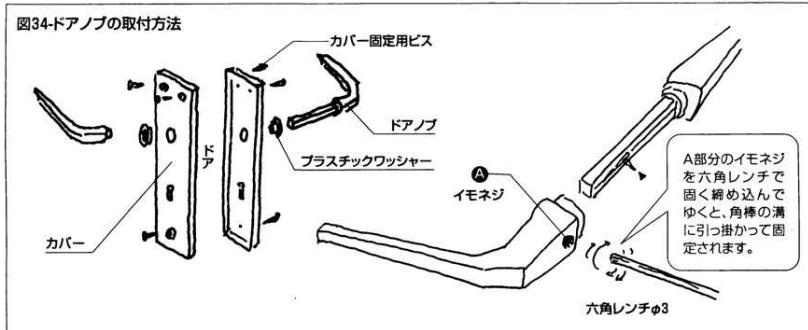
次に、左右の隙間にめ込むためのくさび(図32)を用意し(窓は上下2ヶ所、ドアは3ヶ所)左右の隙間にきつくめ込んで下さい。め込み具合を調整し、水平が取れた所で、左右の枠からくさびをはめたところに少々上向きに釘止めして下さい。ログ厚より出っ張ったくさびはノコギリでカットして下さい。上部の隙間は、セトリングスベースとして必要な隙間です。建具の固定が完了したら、建具まわりの隙間に断熱材を詰め隙間風の侵入を防ぎます。

最後にカバーボードを取り付けます(図33)。建具の枠に2cm程度重ね、ログではなく枠の方に釘止めします。

図33



ドア把手の取り付けは、カバーをあてた後ノブを差し込み、六角レンチでイモネジを締め込んで固定します(図34)。



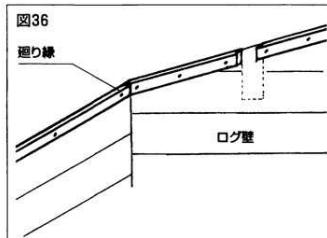
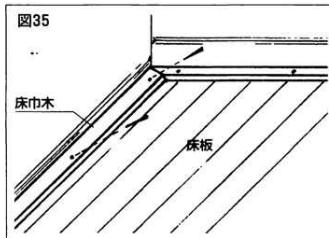
#### 使用する釘



#### 8 巾木・廻り縁

巾木は、横に寝かせて、床と壁の隙間を隠すように四方に回します(図35)。フロアーノットで、30cm間隔に止めて下さい。

廻り縁(図36)は壁と野地板の隙間を隠すように内外とも四方に取り付けます。



#### 9 塗装(外壁・室内床)

まず、汚れやほこりを取り除き、乾いた状態で、刷毛を使って2度塗りして下さい。



##### アドバイス

- 外壁必要量/4ℓ程度、室内床必要量/1ℓ程度
- 外壁塗料は、弊社でもご用意が出来ます。※商品名「ステンブルーフ」(4ℓ缶)/¥9,500(送料・税別)
- 部材保護のため3~5年に1度は再塗装を行って下さい。